

1

○元文四年
延享元子年五月
於江戸表奉願上候一件
江戸於御役所御吟味之節御請申上候口上之覺

伯耆國米子町人

○申~~用~~人~~冊~~ 大谷九右衛門

2 (白紙)

3

乍恐申上候口上之覺

1

御公義様へ奉指上候御願書~~壹~~通添書
式通并由緒書一冊、元文五年申ノ四月八日
御太守様より御公義様~~江~~御持出シ之儀、御当
番河村彦重郎様御取作舞被成、則私義
寺社御奉行所牧野越中守様へ御指出シ
被成候御事

越中守様御内寺社方御下役御~~主~~木

4

田中小右衛門様荒木伊左衛門様須藤文左衛門様
御三人之内小右衛門様御手ニ付申候、乍恐私共奉指上候
御願書御取上御見分被成候上~~ニ~~而~~段々~~
御尋之趣御座候、随~~而~~御請委細ニ申上候
得~~者~~御尋之趣相済申候御事

1

田中小右衛門様被仰付候~~者~~右之願書
則越中守様御前~~江~~差上可申候、御見分
被為成候上~~ニ~~而~~追~~而可被為召出候間得其意

5

罷歸り候様~~ニ~~与~~被為仰附候而~~奉畏罷歸
申候御事

1

御国御屋敷~~江~~参上仕、右之趣委細ニ御
役人様方へ御注進奉申上候御事
申ノ四月十七日牧野越中守様より御差紙
ヲ以明十八日四ツ時御屋敷~~江~~私儀罷出
可申~~与~~被為仰附候故御請書差上

6

随而十八日四ツ時参上仕相窺罷在候得者
御奉行様方例月之通御寄合被為成
諸願之御吟味相始り私儀被為召出
乍恐罷出相窺居申候
御奉行様方御座敷之次第

- 一 牧野越中守様
- 一 本多紀伊守様

- 一 大岡越前守様
- 一 山名因幡守様

右之通御連座被為成候御次ノ間

御家々之御下役人衆中様方御蓮座
被成候、其御次ノ間ニ而私共奉差上候御願
書御役人様方御持出シ被成候得而
御奉行様方御前ニ而御よミ上被成候へ而
相終り申候、其上ニ而越中守様被為成

御意候趣、九右衛門竹嶋之支配ヲハ誰が

致候哉与之御尋ニ被為成候御座候間 紀伊守様ニも

御同前之御尋被為成候、随而御請申上候
竹嶋御支配之儀先祖之者共相蒙私共迄も
司配仕来り申候由申上候、則

御奉行様方御一同ニ夫者重キ事哉与
御意被為成候、次ニ御尋之趣、竹嶋

松嶋両嶋渡海禁制ニ被為仰出候已後者

伯州米子之御城主より御憐愍之以

渡世仕罷在候由願書ニ書あらわし候段
然者扶持なと請申候哉与御意被為成候
随而申上候、御扶持ニ而者無御座候、御
憐愍与書上申候儀者米子御城下江
諸方より持参り候魚鳥之問屋口銭

之座、則私家督^与被為仰附下シ被置候
并同役村川市兵衛儀も御城下^江入込候
塩問屋口錢之儀被為仰附候、兩人共^ニ

右之趣頭^(ハ)戴仕忝奉存候旨申上候

其上^{ニ而}大岡越前守様御意

被為成候趣、九右衛門此添書^ニ書あらわし候通
大坂御廻米船借り之儀并長崎

11

貫物連中^江加ハリ申度儀弥御願

申上候哉^与之御尋^{ニ而}御座候、隨^而

御請申上候^者、天道^ニ相叶御憐愍之筋

相下り申候ハ、右之式品乍恐御願

申上度旨申上候、然^者亦越前守様より

被為^成御意之趣、九右衛門此式品之

儀長崎表之儀^者長崎御奉行所之

12

作舞并御廻米之儀^者御勘定方

懸り^ニ有之候得^者、此方之作舞^{ニ而}

無之候故此儀者御勘定^方相願

申候得^而可然筋^ニ候、此方之了簡^ニ

不及候^与被為仰附候得^者牧野

越中守様本田紀伊守様御一同^中

被為^遊御意候趣、イヤ／＼

13

左様^{ニ而者}無御座候、九右衛門より

御願之筋則御上^江御伺

申上候得^而其上御差図次第^{ニ而}

御勘定方長崎御奉行所へ^茂差

出シ可申候^与御詰開キ被為遊候御事^ニ

御座候、亦越前守様被為成御意候

14

趣九右衛門竹嶋^者大嶋^与絵図^{ニ而}相見候

嶋山之風景・竹本草類・禽獸

鳥類日本之模様トハ品少々^者相
替り申候哉^与御尋^{ニ而}御座候、随^而
申上候、私先祖甚吉儀^者自分^ニ
渡海仕候得^而其身竹嶋^{ニ而}病死

仕候、夫以^後~~来~~^者嶋主共兩人共^ニ渡

15

海自分^{ニ者}不仕候故、私共眼前之儀^者
不奉存候、久記^ニ書あらわし指上申候通^ニ
御座候^与御請申上候、其上^{ニ而}越中守様
紀伊守様因幡守様よりみちの魚^与申^者
如何様之なりかつこう成物^ニ候哉^与
御尋被為成候、随^而申上候、みちの魚^与
申候物^者頭鹿之^ニことく両之はび足ノことく

16

兼^ニ尤^ニ鱗ノ先足ノことく爪有之、爪^ニ有^ニ之能陸^ニも登り申候
尾頭矢はつ^{ニ而}足付キ一体ハ毛
おい毛色鹿之毛之^ニことく^{ニ而}御座候
大みち^与申候得^者馬程^茂御座候由、舟頭
水主共申候儀^{ニ而}御座候、并嶋ねこ
之儀皆黒毛尾頭切レ居申候由御請
申上候、此外しん砂岩ろくしやう

めのうなど之儀御尋被為^成候、随^而

17

御請申上候、然上越前守様被為成御意候^者
九右衛門兎角此御廻米并貫物之儀^者
其持口之役所^江願申上可然候、此方共之
作廻^{ニ而}者まゝならざる事^ニ候^与
御申被為成候得^者越中守様
紀伊守様より被為成御意候^者イヤく
兎角御上^江申上其上御差図次第^{ニ而}

18

御勘定所^江九右衛門儀差出し可申候^与
被為成御申候得^者、則御吟味之

趣相済申候、田中小右衛門様被仰候_者
もはや九右衛門すぎり候へ_与之儀_ニ

御座候_而奉畏罷立申候御事

一 御国御屋敷_江参上仕、則今日

於御役所奉指上候御願書委細之

19

御吟味相蒙、随_而乍恐御請申上候儀

御役人様方へ具_ニ御注進申上候御事

一 申ノ四月廿四日牧野越中守様へ乍恐

為御伺参上仕候、其節田中小右衛門様

荒木伊左衛門様須藤文左衛門様御出合

被成被仰聞候御口上之趣、其方御願之儀

去ル十九日御奉行御中間様方御

登城之節則御老中様御差上

20

御披見_ニ及申候故、追_而御沙汰之趣

相下り可申候_与之御事_ニ御座候得_而

其旨奉承知仕、難有奉存上候段申上

罷帰申候御事

一 申ノ五月三日_{越中守}御役所様へ乍恐為御伺

参上仕候得_者、田中小右衛門様御出合

被仰御口上之趣、其方御願之儀未何之

御沙汰相下り不申候、然_者其方より被差

21

上候由緒書_ニ書あらわし被申候内

御老中様方より為御札其方旅宿へ

御口上書并参勤之御札被申上候節

於御城御書出シ之御書附等何角

取そろゑ御奉行様_江差上可被申候_与

被仰附候、随_而申上候、乍恐御願申上

度奉存罷在候處_ニ御役所様より

御差図ヲ以右之趣奉差上及御見分_ニ候

22

段天道相叶難有奉存候_与御請申上

罷帰候御事

- 一 申ノ五月六日右被為仰附候御古書
差上候目録
- 一 朝鮮国より竹嶋渡海之舟頭水主^江
被遣候音物之目録式通
- 一 松平右衛門大夫様より私先祖之者出府
- 23 仕候節旅宿へ下シ被置候御使札^江通
- 一 秋元摂津守様より先祖之者出府仕候節
旅宿^江為御札御口上書被置下候^江通
- 一 秋元但馬守様より私出府之節旅宿へ
為御札被置下候御口上書^江通
- 一 加藤佐渡守様より私出府仕候節為御札
旅宿^江被置下候御口上書^江通
- 24 酒井讃岐守様より阿部四郎五郎様へ
私先祖之者出府仕候^江付被進候御
手紙^江通
- 一 大久保和泉守様より私先祖之者へ被
遣候御状^江通
- 一 阿部四郎五郎様より私先祖之者^江被為遣候
御状^江通
- 25 長谷川正悦様より私先祖之者出府
仕候節為御札御手紙^江通
- 一 公方様^江御目見被為仰附候節
参勤独礼之次第御書出シ^江通
- 一 松平新太郎様^江御宛之御奉書
之写^江通
- 26 松平伯耆守様^江之御奉書
写シ^江通
- 一 以上拾四通奉差上候
- 一 其已後^者五日七日^江御役所^江乍恐
為御伺参上仕申来り候、然共重キ御事^江
御座候得^者其年^茂及暮申候御事
- 一 明レ西ノ二月十一日牧野越中守様より

27

御差紙ヲ以明十二日四ツ時御役所^江罷出可申^与
被為仰附候、御請書指上ケ随^而十二日四ツ
時御役所^江参上仕相伺罷在候得^者
田中小右衛門様御出合被成候得^而被仰附候
御口上之趣、然^者其方御願書添書^ニ
書上候御憐愍之筋大坂御廻米船
借り之儀、於御城則御勘定方
御奉行様方へ寺社御中間様より委細^ニ

28

被達仰置候、則当二月水野對馬守様
御当番^{ニ而}候得^者 右寺社御役所^江差上候通
御願書添書由緒書等相認候^而
對馬守様御屋敷へ罷出御取次役人衆
中迄其方可申上口上之覺、牧野
越中守様より於御城先達^而
對馬守様^江御達被為置候願人伯州

29

米子之町人大谷九右衛門儀御願書由緒書
以上四通乍恐差上申候、寺社御奉行様より
被為成御差出シ候故、乍恐参上仕候御
憐愍之以願書之趣御沙汰宜敷相
下り申候段、偏^ニ奉願上候^与可申上候
斯之通被為仰附候其旨相蒙
難有奉存候、然上吉日ヲゑらミ、二月
十六日對馬守様御屋敷小川町通へ

30

参上仕候得^而右御下知之通御取次
衆中様迄申上候、則御願書・由緒書
以上四通差上申上候、御請取則
對馬守様御前^江御差上被成候得^而後
刻御取次衆中様御出被仰附候御口上之
趣願書御取上被為成候、追日可被為
召出候^与之御意候間、其旨相心得可

31

被申候^与被為仰附候故、奉畏^与御

請申上罷帰候御事

一 牧野越中守様へ参上仕、右之趣田中小右衛門様へ
申上候御事

一 御国御屋敷へ参上仕、御役人様方へ右之趣
御注進申上置候御事

一 同二月十七日之夕水野對馬守様より御差紙
ヲ以、明十八日四ツ時神田橋通神尾若狭守様

32

御屋敷^江罷出可申^与被為仰附候、御請書

差上ケ申候得^而随^而十八日四ツ時御屋敷^江

参上仕相伺罷在候得^者御役人様方より

九右衛門罷出候得^与被仰附候故乍恐罷出
申候、御座敷之次第

一 神尾若狭守様

一 水野對馬守様

33

一 神谷志摩守様

一 河野豊前守様

一 木下伊賀守様

右之通御連座被為成候御次之間

^{二而}私共奉差上候御願書御役人様

御持出被成候得^而御読上ケ相済申候
上^{二而}若狭守様より被為成御意候

34

之趣、九右衛門国元^{二而者}何ヲ^(マヤ)度^{候哉与}

御尋御座候、随^而申上候、同役村川

市兵衛私儀御城下米子町年寄

御役儀代々相蒙相勉罷在候^与申上候得^者

其上^{二而}被為成御意候、家業^者如何成ル

売買致候哉御尋御座候、随^而申上候

私共儀諸^商買^不仕候、右御願書^二

35

書あらわし申上候通、元禄九年竹嶋

渡海禁制被為仰出候、已後^者因伯之

御太守御内伯州米子之御城主より
御憐愍之以渡世仕来り居申候段申上候得_者
然_者御扶持ヲ得申候哉_与之御尋_{ニ而}御座候
随_而申上候、左様_{ニ而者}無御座候、米子
御城下へ持来り候魚鳥之間屋

36

店之座ヲ私家督_与被為仰附被下置候
則問屋口錢受納仕以之渡世_致
奉存上候、同役市兵衛儀_者御城下_江
入込候塩問屋座ヲ被仰付置候、此口錢ヲ以
渡世仕居申候、是以乍恐
公方様御太恩之御余光_与

37

奉存上難有仕合_ニ奉存候旨申上候
其上_{ニ而}对馬守様より被為成御意之趣
公方様_江御奉公之筋_者如何有之候哉_与之
御尋_ニ御座候故随_而御請申上候、私共
体之先祖_{ニ而}御座候得_者何之御奉公_与
申上候程之儀_者無御座候、併寛永年中
西之御丸御普請之節私共

38

御太恩為冥加之、乍恐御願奉申
上、竹嶋梅檀御床板并御書棚之
御板奉上納仕候、乍恐寸志之儀_与奉存候

一 元録_(イ) 八年朝鮮国王より竹嶋之儀_者

古来より日本之御仕配_{ニ而}御座候_与之
御證文常憲院様御代

39

御請取被為遊候、然上ハ竹嶋之儀_者
唐土之嶋_{ニ而}御座候ヲ元和四年之
頃より日本之則御支配_与奉成候
儀_者元来私之先祖大谷甚吉海
道渡海仕候節、右之竹嶋見付ケ申候へ_而
帰帆申候砌、村川市兵衛_与申合せ其上

阿部四郎五郎様へ御伺申上候得_者則

40

四郎五郎様御預ヲ以御上聞相達

竹嶋之御支配渡海共ニ被為仰附候旨

御奉書松平新太郎様へ相下り難有

仕合奉存上渡海仕来り申候、尤

公方様_江右之竹嶋より何之御蔵入_者

毛頭無御座候得共、唐土之嶋ヲ日本之

41

御支配_与奉成候名聞之儀ヲ

御上へ_者御取被為遊御儀_与奉存上候、此

段御奉公_与者難申上奉存候得共是ヲ以

御取付申上不顧恐ヲ御憐愍相下り

申候儀奉願上候_与申上候得_者其上_{ニ而}

對馬守様御意被為遊候、竹嶋

竹木・草類・禽獸・みちの魚・鮑貝

42

など之儀御尋御座候故随_而申上候

此趣之儀_者委細久記ニ書あらわし

差上申候通_{ニ而}御座候由申上候得_者

先御吟味之儀是迄_{ニ而}相済申候

十

對馬守様被為成御意候趣、追日

御評儀被為成候得_而重_而可被為召出旨

被為仰附候得_而奉畏、則御役所より

43

罷歸り申候御事

一 牧野越中守様へ参上仕、今日御勘定

御奉行様_江被為召出候得_而差上申候

御願書御見分被為成候故_{ニ而}段々

御尋之趣御座候、随_而委細ニ御請申上候へ_者

先_者御吟味相済申候、右乍恐御注進

奉申上候旨申上候得_者則田中小右衛門様

44

御承知被為成候御事

一 御国御屋鋪へ参上仕、右之趣御役人様方へ

委細ニ御注進申上候御事

一 酉ノ四月十七日水野対馬守様より御差紙
ヲ以明十八日四ツ時御屋敷_江罷出可申_与被為
仰附候、御請書差上随_而十八日四ツ時参上
仕相伺罷在候得_者被為召出候

45

御奉行様方御連座被為成候得_而、則
対馬守様被為成御意候_者、九右衛門差上申候
願書御廻米船借り之儀、是_者於大坂とま屋
久兵衛越前屋作右衛門_与申者年切_{ニ而}作廻
仕申候、御儀定之年相立不申内_者
御役所より之返過之儀難申付也、然上ハ
右両人之船借り共へ其方より相对致候_而

46

船借り役人_江相加り可申哉、右之通候故_者
役所より返過之儀難申付_与評儀一決
申也、其旨相心得可申_与被為仰附候
随_而御請申上候趣先以及御沙汰
申上候段難有奉存上候、此上追_而御慈悲
相下り申候儀、乍恐御願申上度_与申上
相すざり申候御事

47

一 牧野越中守様へ参上仕、右之趣田中
小右衛門様へ申上候得_者、御承知被成候得_而小右衛門様
御申被成候_者、先刻御勘定御奉行所より
寺社御奉行御中間様方へ御使者相立候、御口上之趣
大谷九右衛門差上申候願書見分申候上
評儀申候處、船借り之儀於大坂年切之
作舞仕候者両人有之候、未切年限_{ニ及}

48

不申候故、役所より返過之儀難申付候得_者
此段九右衛門へ申渡シ候、尤右之船借り両人へ
相对致候得_而加り可申哉_与申聞せ候、右之九右衛門
御差出し之儀_{ニ而}御座候故、如此以使者
申達候_与之御口上書来り申候、則其方
罷出御注進被申上候儀御前へ可申上候_与
被仰候御事

49

一 小右衛門様御申被成候_者、御役所御中間様より御老中様_江其方御願書御差上

及御見分、去年已来一年半_ニ打過

則御下知相下り、此節御勘定所へ其方

御差出シ被為成候處_ニ右之御返答之趣

_{ニ而者}御上へ相達御下知相下り申候所相済不申候、然上寺社御中間様方

50

御寄合之刻此儀御評儀被為成候

得_而、亦押返シ其方可被遣候哉_与拙者_者

存入候、追日其方儀可被為召出候間左様相心得可被申候_与被仰候御事

一 酉ノ六月二日牧野越中守様より御差紙

ヲ以明三日四ツ時御屋敷へ罷出可申_与

被仰付候、御請書差上随_而二日四ツ時

51

参上仕相伺罷在候得_者、田中小右衛門様

御出合被成候得_而被仰候_者、先頃其方へ

申入候通先月十八日寺社御中間様

御寄合之節御勘定所へ亦々其方

御差出シ可被遣_与之御評儀之及御沙汰

申候處、寺社御奉行様より御勘定所へ

御差図被為成候_ニ相当り可申哉_与已後之

52

入割之程御氣付被為成候故、重_而其方

御差出し被為成候儀_者御止メ_ニ被為成候

然上ハ、長崎御奉行所へ御差出シ可被為

成_与之御評儀一決被為成候_ニ付

先日御登城之節於御城寺社

御中間様方より長崎御奉行所

萩原伯耆守様_江御面談_{ニ而}其方

53

義御差出シ可被為成_与御達被為置候

御願書相認次第_ニ参上仕可被申候_与被

仰附候、尤其節私より可申上候口上之儀

牧野越中守様より於御城先達^而

御達被為成候伯州米子町人大谷九右衛門

御願書乍恐奉差上候^与可申上候旨被

仰付候、其上長崎御奉行様當時

54

御出府、萩原伯耆守様御屋敷

すい戸橋長崎御勤番窪田

肥前守様御屋敷表六番町^与

則田中小右衛門様より御書付頂戴仕候

随^而申上候、御下知之趣承知仕奉畏候

御願書相認其^上古日ヲ^あら^わし^めん

55

伯耆守様御屋敷^江参上可申上候

先以難有仕合^ニ奉存候、乍恐御次^而砌

殿様御前宜敷御取成奉頼上候旨

申上罷歸り申候御事

1 御国御屋敷^江参上仕、右之趣御役人様

方^江委細^ニ御注進申上候御事

56

1 西ノ六月十日長崎御奉行所

萩原伯耆守様御屋敷^江御願書

さゝげ参上仕候間、則御取次衆中様へ

右田中小右衛門様より被仰付候通之口上申上

乍恐御願書指上申候、御請取御奥へ

御入被成候之所^ニ御下役中西幸内様

57

御出逢被成候へ^而被仰候御口上、追付

殿様御座敷御出被為成候刻

御前^江被為召出何角御尋之儀

相下り可申候間、其旨相心得可被申候

^与被仰^聞仕候、其上^{ニ而}則御座敷^江

被為召出相伺罷在候、伯耆守様

被為遊御意候趣、其方儀国元^{ニ而者}

58

如何様成壳買申候哉^与之御尋^{ニ而}御座候

随^而御請申上候、私共儀元録^(くろ)年中

竹嶋松嶋両嶋之渡海制禁^ニ

被為仰出候以後^者御願書^ニ則書あらわし

差上申候通、伯州米子之御城主より

御憐愍ヲ以渡世仕難有奉存候旨申上候

59

然^者扶持ヲ得候かと被為成御意候、随^而

申上候、左様^{ニ而者}無御座候、御憐愍^与申

上候儀^者米子御城下^江諸方より入込申候

魚鳥之間屋店之座ヲ私家督^与被

為下シ置候、同役市兵衛儀^者御城下へ

入込候塩問屋口錢之儀被為仰附候得^而

渡世仕罷在候、是全ク公方様御太恩之

60

御余光^与奉存上兩人共^ニ難有仕合奉存上候

段乍恐申上候得^者、其上亦被為^成御意候

趣其方共所^{ニ而者}奉行所へ勤なと申候哉^与

御尋御座候、随^而申上候、兩人共^ニ代々

米子町年寄御役相勤申候儀^{ニ而}御座候由

御請申上候、又竹嶋竹木草類禽獸

みち之魚鮑貝なと段々^与御尋御座候

61

随^而御請申上候御事

1

伯耆守様被為遊御意候^者、九右衛門

御上^江差上申候願書及見分候長崎表

貫物入レ札連中へ相加り申度^与之儀

此事^者古来より江戸京大坂堺駿

河長崎皆御領^{ニ者}入札連中へ相加り

申者^茂有之也、惣^而大名下より貫物

62

入札人数^ニ入候事未其例無之也

我等耆人之了簡難及、尤同役へ

可申談也、急^{ニ者}請込不成故、先^者

左様ニ相心得可申^与被為仰附候、寺社御奉行所へも此段使者以可申達候^与被為遊御意候、随^而申上候、乍恐追^而

63

何とそ御慈悲相下り申候段幾重^{ニ茂}

奉願上候旨申上候得^而相すざり申上候

中西幸内様被仰候、唯今御前^ニ被

為成御意之通、大名下より貫物人数へ

相加り^レ候其例未無之候得^者御壺人様之

御了簡^ニ難被為成御事御尤奉存候

然上ハ追々品^茂可有之候、左様ニ相心得

64

与被仰候ニ付

可被申^与之御事^ニ御座候市御請申上

罷歸り申候御事

一

牧野越中守様へ参上仕田中小右衛門様へ

右之趣委細^ニ申上候得^者御承知被成

此趣殿様^江可申上^与御申被成候御事

一

田中小右衛門様被仰聞候御口上之趣、九右衛門

65

御願之儀^者御老中様及御沙汰

其上御差図ヲ以御勘定所并長崎

御奉行所へ寺社御中間様方於御城

則御面談^ニ被為仰達候得^而其上其方

御差出シ被為遣候處^ニ則御両御役所より

右之御断^ニ候得^而者相済不申事候

追日御中間様方御寄合之節此義

66

御評儀可被為成候、其上^{ニ而}可被為召出候間

左様^ニ相心得可有之^与之御事^ニ

御座候、随^而申上候、私共体之儀^ケ御様迄^ニ

御苦勞奉懸申上候段、千万恐入

申上候、然共御慈悲^者御上より相

下り申儀^ニ御座候得^者、乍恐幾重^ニも

御慈悲之段奉願上候^与申上罷歸り

67

申候御事

一 御国御屋敷へ参上仕御役人様方へ
右之趣委細ニ御注進申上候御事

一 酉ノ八月十^七日牧野越中守様より御差紙

ヲ以明十八日四ツ時御屋敷へ可罷出^与

被為仰附、則御請書差上随^而

十八日四ツ時参上仕相伺罷在候^{へ者}

68

田中小右衛門様御出合被成被仰候御口上
之趣、其方御願之筋由緒たゞ

敷依有之、則御上へ被為成御達

御老中様及御沙汰御差図以

御勘定所并長崎御奉行所へ

其方御差出シ被為成候處ニ右御

両御役所より右之御断之儀

69

以御使者被為仰達候、尤其方へも

右之通被為仰渡候、依之寺社

御中間様方此儀及御沙汰亦々

押返シ、其方儀右之御両御役所^江

御差出シ可被為成^与思召被為成候得共

其方ノ之御奉行所^与申儀^者

70

重キ御事ニ候得^者入割如何哉^与

亦御用捨被為成候、然上其方義

御不便^与被為思召候、依之江戸

京都大坂其外於御領、当時

御公儀^江之御為次ニ其身之うるおひ共

可成^与、存付之儀も有之候ハ、申上[■]

品々書付ヲ以罷出御願可申上候

71

御吟味之上^{三而}宜敷可被為仰附候間

其旨相心得可申^与被仰附候、随^而

御請申上候、重々以御慈悲之御下知

相蒙申上候段千万恐入難有仕合
奉存上候、御次之節乍恐御前宜
御取成奉願上候、然上ハ御国屋敷へも
此旨相達可申上_与申置候御事

72

- 一 御国御屋敷へ参上仕御役人様方へ
右之趣委細_ニ御注進申上置候御事
- 一 御堂上清水谷前ノ大納言様家へ
由緒御座候得_而御代々様へ御出入
乍恐奉申上候

- 一 御同清水谷中将様へ_茂右御同
断之儀_ニ御座候、右両卿様へ

73

御出入申上候故乍恐御懇意之趣
相蒙難有仕合_与奉存上候、六ヶ年
以前未ノ八月江府_江為御願
罷下り申候節、右御両卿様より被為
仰付候之儀、此度其方関東へ罷下り
申_ニ付

74

日光宮様へ御出入被為仰附其上_{ニ而}
乍恐御目見等ヲも申上候得_者自然
御沙門之御慈悲ヲ相蒙可申上事も
可有之候、左候得_者其方へ生前之
面目後代之名よう不可過之候と
被為思召則宮様_江御両卿様より
御頼之御実書御持せ被為遊可被下之旨
御家臣一色主水様より右之趣被

75

- 為仰付候得_而難有奉存上、随_而
御請奉申上候御事
- 一 清水谷前大納言様御儀_者則
日光宮様御外跡_{ニ而}被為遊御座候
則前大納言様中将様御親子様
より両通之御実書頂戴仕、江府へ
罷下り申候_而未ノ九月五日上野へ

76

登山仕於御殿大西淡路守様迄
右之御実書御両通奉差上申
上候得^者、則万里小路民部卿様御
出合被成候得^而御書御請取被為成

則^{宮様}御上へ御差上被為成候、其上^二而

又御出合被為成私へ被仰付候^者
其方之儀^者清水谷前大納言様

77

中将様より宮様へ御実書ヲ以
御頼之趣御申被為上候、依之則
御出入之儀被為仰附候、其上御目見之
儀、宮様明後七日光へ御登山
被為遊候、御くわんぎや之已後可被為
仰附候間其旨相心得可被申候^与之

78

儀^二御座候、其上国元^二おゐて^者
如何様之売買体^二候や、尤国主へも
年始之御目見ヲも被致候哉、格式
等之儀如何^与御尋被致為成候故御
請書奉差上候御事

一

元和四年從御公義様
御奉書奉頂戴仕竹嶋へ渡

79

海仕彼嶋^二而之所務ヲ以渡
世仕来り候^而難有奉存上候、然處^二
元錄^{（イ）}年中右之嶋へ朝鮮人不慮^二
渡海仕申候首尾^二付、其以後竹嶋へ
渡海仕候儀制禁^二被為仰附
則御奉書被為召上候得^而私共義

80

家業ヲ失イ無^是悲仕合路とう^二
相立チ可申候之處、乍恐從

台徳院様御代常憲院様迄

御代々様^江参勤之独礼申上来り候
者共^ニ御座候得^而、則因伯之

御太守御内伯州米子之從御城主

81

御憐愍ヲ以御城下^江入込申候魚鳥

類之間屋店之座ヲ私家督^与被為

仰附被下置候、此儀ヲ以渡世仕難

有奉存罷在候并御太守御在

国之節^者年始為御礼御目見

申上候、右之趣乍恐御請書奉指上ケ候

82

以上

元文三年

米子町年寄

未十月六日

大谷九右衛門

日光宮様御坊官中

万里小路民部卿様

83

右之通御請書奉指上候御事

一 宮様未九月廿三日日光より御くわんぎよ被為遊

其已後十月十五日御目見被為仰附、首

尾能御目見申上候段難有仕合^ニ奉存上候

(貼紙下)

「是より例年正月廿六日御年始之御目見

奉申上候」御事

84

一 申ノ正月廿六日御年始之為御礼

宮様^江御目見被為仰附首尾能独

礼之御目見奉申上候得^而難有奉存上候

是より例年正月廿六日御定日^{ニ而}御年始之

御目見申上来り候御事

一 申七月九日從宮様牧野越中守様へ

龍王院いんげん為御使、伯州米子之

85

町人大谷九右衛門義京都清水谷前大納言殿

家御心安ク御出入申候^ニ付、彼御方より

御頼故則宮様へ御出入被為
仰附候、其上御目見等ヲ^茂申上候、依之
右之九右衛門義此度御公儀^江御願之
筋申上候得^者宜敷御取作廻被遣
候様ニ此段御内々^{ニ而}宮様

86

御頼ニ被為思召候旨被為仰進候ニ付
則越中守様より御内々^{ニ而}御請被
為仰上候、右之趣申ノ七月十二日
上野於御殿大西淡路守様ヲ以

被為仰^間附被候之^間難有仕合奉存上候
御事

87

一 西ノ十二月十八日從宮様因伯

御太守様^江御内伯州米子^江之御城主

~~米子町人~~
大谷九右衛門義、元禄年中竹嶋

渡海之儀制禁以後^者則從御城主

御憐愍ヲ以渡世致居申候由、此以後
只今迄御申付被置候之通万事

88

不相替^{被仰付}御申^{被仰付}附被置候ハ、

宮様御悦可被為思召^北旨万里

小路民部卿承り、御上意之趣御手紙^{ニ而}

護法院院家^江被為御仰渡候

依之院家則御国御屋敷^江

御^出被為成候御事

89

一 西十二月廿六日從御太守様

宮様^江御上意之趣為御請

御使者蓮花寺五郎八様上野へ

御登山被成、護法院迄右御請

被為仰上候御口上之趣

一 大谷九右衛門儀御頼之趣承知

仕奉畏~~在~~候、右之□□御座候、次^ニ津田

90

周防様より之御口上之趣

一 ~~右~~^{大谷}右衛門義御公儀へ御願之筋

御座候此已後相つゞき御願申上候ハ、
役人共評儀致候^而遣し可申候此御口上^者

護法院迄^{被仰進候}御申~~被遣候~~御事

一 酉ノ十二月廿七日万里小路民部卿様

より御使札ヲ以~~被~~為仰付候、御用之儀

91

有之候故上野御殿へ参上仕

可申~~申~~^旨~~被仰付候~~御申~~在~~右御座候故随^而急~~々~~

参上仕相伺罷在候處、則民部

卿様御出合被為成被為仰附候

御口上之趣

一 宮様より松平相模守殿へ其方義

護法院為御使御内々^{ニ而}御頼^ニ

92

被為思召之旨被仰遣候~~申上~~

御上意之為御請蓮花寺五郎八^与

申仁昨日登山^{ニ而}御請之儀護法院迄

被仰上候、依之右之趣申渡し候

重キ御事其方家^{ニ而者}子々孫々^ニ

至^迄~~申事~~^{申事}候~~得~~^{重々難有}

奉存可被申候、尤相模守殿御屋敷

93

御役人中へ右之趣則御札^{可被申上旨}~~打被申遣~~~~申~~

被為仰付候、随^而御請奉仕難有

仕合^礼~~礼~~奉存上候^与申上候御事

- 一 酉ノ十二月廿八日上野御殿^江参上
仕乍恐右之御礼御坊官衆中様
奉申上候、次ニ護法院いんげん様へ

右之御礼^{申上候}~~為~~申上^{申上候}参上仕候御事

94

- 一 同廿八日御国御屋敷へ参上仕候得^而
御役人様方迄乍恐右之御礼
奉申上候御事

- 一 京都吉田左兵衛督様へ由緒御
座候得^而私儀御出入奉申上候^ニ付六ヶ年
以前未八月関東へ罷下り申候節
則吉田様より若御老中様本田

95

伊豫守様へ則九右衛門義御頼之
趣ヲ被為仰進候御書頂戴仕、江
府^ニおゐて右之御書通之儀
則御家臣中條六郎右衛門様迄差上

申候、其以後御出入^ニ被為 仰附其上
未ノ十月廿八伊豫守様^江御目見
被為仰附首尾能御目見申上難

96

有奉存上候、其以後御客対被為成候節々
御目見奉申上候御事

- 一 吉田様御^簾中様御儀^者本田伊豫守様
御息女様^ニ被為遊御座候御事
右之趣覚書ヲ以書~~あ~~わし申候

^{乍恐奉申}~~奉~~差上候、以上

97 (白紙)

98 (白紙)